



木更津高専だより

2022
92号
March



(高専ロボコン 2021 集合写真)

Contents

校長挨拶	1
主事、専攻科長挨拶	2~3
地域共同テクノセンターの活動報告	4
全国高専体育大会報告	4~6
ロボコン(地区大会)	7
学校行事(学園祭(祇園祭)、手持ち花火大会、マラソン大会)	7~8
後期STG講習会、令和3年度いじめ防止短歌コンテスト結果	9
学生の特別表彰	10
お知らせ	11

校長 佐久間 研二

卒業生・修了生の皆さん、ご卒業・ご修了おめでとうございます。また、ご家族の皆様にも心よりお慶び申し上げます。

卒業生・修了生の皆さんは、5年間あるいは7年間、木更津高専において、学業・クラブ活動・寮での生活・各種コンテスト等を通じて、多くの事を学び、多くの友人を作り充実した学生生活を送られたことでしょう。この思い出、自信を胸に新たな一步を踏み出してください。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で日々感染予防のため様々な制約の下、学校生活を送る必要があり不自由な面も多かったと思います。また、学校行事について多くが中止となり、木更津高専での思い出のページ数が減ってしまったことは残念でなりません。

しかし、我が国の歴史においても極めて特筆すべきコロナ禍という厳しい状況の中で、遠隔授業、分散登校等新たな取組にも柔軟かつ的確に対応して学びを継続し、卒業・修了を目指して頑張ったことは、将来懐かしい思い出になると確信しています。

コロナ禍のような緊急事態の中で、いかに対応するかといった課題解決能力は、社会に出てからも極めて重要な能力です。高い専門知識、優れた技能を有することは、技術者としてある意味当然ですが、皆さんには、それと同時に常に社会の変化等にも敏感で、柔軟な思考と的確な判断能力を持った人材になって貰いたいと思います。

木更津高専は、令和3年度中に雄峰寮の改修、国際寮の新設が実現し、新たな飛躍のための環境が整う予定です。これを契機に、国際化の一層の推進等、本校の強みを活かした取組を強化していきます。皆さんが「木更津高専出身です」と誇らしく言えるような存在になれるよう努力していきたいと思っています。

卒業生・修了生の皆さんが、それぞれの進路において、その力をいかに発揮し、本校の卒業生のレベルの高さを社会に示して下さい。そのことで高専教育の重要性が益々認知され、充実されるという好循環で、木更津高専が更に発展していければと思います。

皆さんのこれからの活躍と輝かしい未来を心より祈念しています。



教務主事 岡本 保 (電気電子工学科 教授)

卒業生・修了生のみなさん、ご卒業・ご修了おめでとうございます。また、卒業生、修了生のご家族の皆さまにも心よりお祝い申し上げます。

昨年度は、新型コロナウイルスにより、多くの授業が遠隔で実施されるなどの影響を受けましたが、今年度は幸いほとんどの授業を対面で実施することができました。しかし、体育祭が中止になり、学園祭は通常通りの方法で開催できないなどの影響はありました。学校行事の中止などは寂しい面もあったと思いますが、大きな環境の変化の中で学んだ経験は将来きっと活かされると思います。このような困難を乗り越えたことに胸を張っていただきたいと思います。これからみなさんは、楽しいことや悲しいことなど様々な経験をするとと思います。また、多くの答えのない問題に取り組んでいかななくてはならないと思います。その際には是非、高専時代のことを思い出してみてください。木更津高専で身に付けた様々な力がきっと役に立つはずです。実践的・創造的技術者として、みなさんの今後の活躍に期待します。



学生主事 坂田 洋満 (人文学系 教授)

卒業生・修了生のみなさん、ご卒業・ご修了おめでとうございます。木更津高専で過ごした5年間・7年間は充実していましたか?みなさんが本校で過ごしたこの期間に、重大な出来事がいくつも起こりました。平成から令和への移行、令和元年東日本台風による被災、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的大流行(パンデミック)。中でもCOVID-19は、入学時には考えられなかったマスク生活、緊急事態宣言による社会活動の制限、2020年の流行語大賞に選ばれた「3密」、企業ではリモートワークを余儀なくされオンライン会議が主流に、学校では遠隔授業や一人1台の端末導入、などなど社会を大きく変えました。課外活動もそうですが、これまで当たり前できていた集団での活動は、感染拡大を避けるために強い制限がかけられ、我々の心にもソーシャルディスタンスをもたらした気がします。

人と人が触れ合い共に活動することは、心のビタミン剤でもあり、精神的な安定をもたらします。つらいことに直面したときに誰かが「一緒に頑張ろう」と励まし支えてくれて、味方になってくれると勇気が出てくるのと同じ感覚ですね。心の安定は、我々が生きていく上で最も大切な要素の一つだと私は考えています。

これからみなさんはそれぞれの進路に進んでいくわけですが、是非、家族や友、先輩、後輩、師などみなさんを支えてくれる人たちを大切にしてください。時には心を打ち明けて本音を伝えてみてください。話を聞いてもらうだけで、きっと元気が出てくるはずです。

みなさんのこれからの活躍を心より期待しています。



寮務主事 清野 哲也 (人文学系 教授)

卒業生・修了生の皆さん、ご卒業・ご修了おめでとうございます。また、ご家族の皆様にも心よりお祝い申し上げます。

さて、この2年間、新型コロナウイルスの影響で私たちの生活は一変しました。これまでの普通であったものがそうでなくなり、生活全般にわたって制限が課され不便なことも多々生じました。しかしその一方で、リモート・オンラインの推進などはコロナの後押しを受けて踏み込むことができたとも言え、大きく前進した前向きな事柄になります。今後は環境ごとの多様性を考えながら、社会のシステムとしてどう定着させるかが大きな課題になるものと思います。また、個人の観点では、自由度が高い環境に置かれるほど自律性の重要性が増してくることが挙げられます。卒業・修了される皆さんには、本校で積み上げたものを土台にして、これから臨む新しい生活環境でも力を発揮してほしいと思います。皆さんの今後の大いなる飛躍を期待しています。

最後に、私が自身の大学入学式で受けた学長の式辞を紹介し、送る言葉としたいと思います。“真理を探求するということは砂浜を深く掘るようなものである”多くのことに当てはまるよい例えだなといつも思います。深く掘り下げようとすればするほど、払い除けなければならない事柄、解決しなければならない課題が多くなる、といったところでしょうか。



専攻科長 大枝 真一 (情報工学科 教授)

卒業生、修了生の皆様、ご卒業・ご修了おめでとうございます。

木更津高専で過ごした本科5年間、専攻科2年間は皆さんにとってどのような価値をもたらすでしょうか?本校の授業や研究を通して、高度な専門知識と技術能力を身に付けたことと思います。それとともに、私は次の2つも大きな価値となるのではないかと考えています。それは、「学び方」と「学ぶ喜び」です。科学技術の発展は想像を絶するものがあります。本校で学んだ知識や技術はほんの一部です。今後、10年、20年後、最先端で活躍する技術者・研究者になるためには、これから新たに修得しなければならないことの方がはるかに多いです。

しかし、大丈夫です。皆さんは本校でその「学び方」を身に付けました。また、人間は、本能的に自分自身の成長に喜びを感じる生き物です。授業や研究活動を通じて、できなかったことができるようになったり、知らないことを知るという「学ぶ喜び」を獲得しています。本校で、「学び方」と「学ぶ喜び」を得たのであれば、それは将来きっと大きな価値をもたらすものだ、私は考えます。

学問ほど面白いものはありません。木更津高専で学んだことを基礎とし、自己研鑽に努め、新しい世界を作る技術者、研究者になってください。皆さんの大きな飛躍を期待しています。



地域共同テクノセンターの活動報告

地域共同テクノセンター長 青木 優介(環境都市工学科 教授)

令和3年度における地域共同テクノセンターの活動を報告します。

本校では、地域貢献活動の一環として、教職員や学生らが小中学校や公民館等に向向く「出前授業」、校内で様々な講座を開く「公開講座」などを実施しています。昨年度以来、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からこれらの実施が難しい状況が続いてきましたが、今年度は緊急事態宣言などの時期を避けつつ、例年に近い件数の活動が実施されました。細やかな感染対策を講じながら、出前授業・公開講座を実施いただきました教職員ならびに学生の皆様に、厚く御礼申し上げます。

また、本校には、多くの企業・有志の方々と木更津高専との交流を目的とする技術振興交流会という会があります。ここでの会議を、昨年度はメールや文書等で実施していましたが、今年度は対面+オンラインの形で実施できました。例年大人気の主催イベント「キッズサイエンスフェスティバル」は残念ながら中止になりましたが、代替として、オンラインでも実施可能な「キッズサイエンスクイズ」を制作するなど、新たな取り組みを進めています。さらに、10月に開催したテクノフォーラムでは地域課題に関する座談会が実施され、3月にはオンライン形式での会社&インターンシップ説明会が開催されました。今後も同会を通じて、企業・有志の方々と木更津高専が交流を深めるとともに、本地域がますます盛り上がることを期待されます。

以上、令和3年度の活動報告とさせていただきます。



全国高専体育大会報告

テニス部 (機械工学科4年 松野下 純)

8月25日(水)、26日(木)に第56回全国高等専門学校体育大会テニス競技が宮城県仙台市の泉総合運動公園およびシェルコム仙台で開催されました。私は男子個人シングルスに関東信越地区代表として出場し、結果は2回戦敗退でした。1回戦はまずまずでしたが、2回戦ではあまり自分のプレーが出来ないままの敗戦となったので、少し悔いが残る試合となりました。しかし、はじめて全国大会の雰囲気を経験できたという事は大きな収穫となりました。来年は個人・団体の両方で全国大会に出場する事を目標に、地区大会にむけて1年間練習を重ねていきます。

また今回はコロナ禍で大会自体の開催が危ぶまれる中でしたが、大会関係者のご尽力により開催に至る事が出来ました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。



陸上競技部（電気電子工学科5年 岡田 蒼海）

陸上競技部は、9月4日(土)、5日(日)に宮城県のキューアンドエースタジアムみやぎで開催された全国高専体育大会(陸上競技)に男子10名、女子4名で出場しました。

今大会では、女子総合で過去最高得点の27点を獲得し4位入賞を果たしました。また女子フィールド部門でも2位に入賞しました。

今大会は、コロナ禍で出場を辞退した高専もあり、例年に比べ参加人数は少なくなりました。そうした中ではありましたが、女子走高跳での優勝をはじめ本校出場選手の多くがメダル獲得または8位入賞することができました。COVID-19に耐えながらの練習が、実を結んだということを実感できました。

僕は、男子400mハードルに出場しました。高専1年生から陸上競技を始め、5年生にしてようやく全国高専大会へ出場することができました。自己記録更新とはいかなかったものの、自分自身のできる限りのことをぶつけることができ、とても満足しています。

小さなことをコツコツと積み上げ続け、その成果を発揮することができたことは、自分にとって大きな経験となりました。この経験を研究などの他分野に活かして、これからもコツコツと継続をしていきたいです。

コロナ禍での出場ということで、反対の声は多数ありました。COVID-19の影響による部活動制限があり、練習をすることができない期間もありましたが、大会へ出場することができたということに感謝したいと思います。ご支援・応援ありがとうございました。



卓球部（環境都市工学科2年 武井 心）

10月30日(土)、31日(日)に福島県楡葉町のならばスカイアリーナで行われた全国高専大会卓球競技に、男子シングルス環境都市工学科5年林 海斗と女子シングルス環境都市工学科2年武井 心が出場しました。今年は新型コロナウイルスの影響で関東信越地区の予選は行われず、今までに出場した大会の戦績によって推薦してもらうことができ、出場しました。結果は、予選リーグで勝つことができず、予選敗退となりました。初めての全国大会で、今までにない緊張感を味わい、いつも通りのプレーをすることができず、今まで練習してきたことが出し切れなかったのでもっと悔しかったです。来年はこの経験を生かして良い結果を出せるように練習に励みたいです。また、現在4年生の先輩が来年は最後になるので地区でも全国でも、勝ち上がれるように頑張りたいです。最後に、大会を開催して下さった関係者の皆様、応援して下さった皆様、本当にありがとうございました。



全国高専大会
卓球女子シングルス予選リーグ

バドミントン部（環境都市工学科 5年 松田 和菜花）

12月4日(土)、5日(日)に岩手県一関市総合体育館で行われた全国高等専門学校体育大会バドミントン競技に出場してきました。

女子団体、ダブルス、シングルスの出場でした。試合では自分たちの持っている力を全部出しましたが、初戦敗退となりました。

団体戦では2大会連続で全国高専大会に出場したものの、1勝もすることができず悔しい思いをしました。来年度は男女、団体戦、個人戦共に全国高専大会に出場できるよう、後輩たちをサポートしていきたいと思います。



水泳部（電気電子工学科 3年 中山 大夢）

12月18日(土)、19日(日)に我々水泳部は、秋田県立総合プールで開催された全国高専大会水泳競技に出場しました。

今回は、コロナ禍で例年とは違い8月上旬に行われる予定だった地区高専大会が中止となってしまい、さらに、8月下旬に山形で開催される全国高専大会も1度は延期となってしまったものの、改めて秋田で開催することが決まり、標準記録を突破している3名が出場することになりました。

スケジュールも、例年とは異なり、2日間のタイム決勝で、5種目中3種目入賞することができました。今年も、新型コロナウイルスの影響で、練習ができなかったり、制限されたりと、厳しい状況の中で入賞できたことは、来年度に向けて、大きな自信となりました。

来年度は、愛媛県で全国高専大会が開催されます。この大会に向けて、我々水泳部は目標を高く持って、日々練習に励んでいきたいです。



ロボコン(地区大会)

ロボコン指導教員 関口 明生(電子制御工学科 准教授)

今年度で34年目を迎える高専ロボコンの関東甲信越地区大会が10月31日(日)にオンラインで開催されました。今年のテーマは『超絶機巧』(読み:すごロボ)でした。こだわってきた技術や挑戦してみたい新しい技で「すごい!」と思わせるパフォーマンスを披露するテーマでした。

Aチームは、ジェネバ機構とカムを用いてボールを打ち上げるロボット「ハウス」と、花が開くような機構を取り入れたロボット「ユウガオ」、ユウガオにリンク機構を加えたロボット「アサガオ」の3台で、キャッチボールを披露しました。Aチームは協賛企業のローム株式会社様から特別賞を頂きました。Bチームは、身長より大きい合体ロボットのパフォーマンスという難しいテーマの達成を目標に掲げました。「動力を搭載してはならない」という制限がある「小道具」として、人の肩ぐらゐの高さがある大きな2本足を用意し、その上に移動機構などを持たないロボットを乗せて二足歩行させることを目指しました。大会当日、完全なパフォーマンスはできませんでしたが、合体した姿を人の手で披露することができました。

世界的に続くコロナ禍においてもロボコン活動を温かく支えてくださり応援してくださいました皆様に、厚く御礼申し上げます。



集合写真



合体ロボット(Bチーム)

学校行事

学園祭(祇園祭)

学生主事補 沢口 義人

11月6日(土)、7日(日)の2日間にわたり、「With COVID-19, New Type performance!」をテーマとして、2年ぶりの祇園祭を開催しました。新型コロナウイルス感染症の先行きが見えず、学生同士でも教職員間でも引き継ぎが不十分な状況ではありましたが、関係学生・教職員の尽力により議論と準備を重ねたうえで、来場者を本校関係者のみに絞っての対面開催へと漕ぎ付けました。飲食企画なし、各企画で三密防止に十分に配慮するなど、例年とは大きく異なる形式となったものの、両日ともに好天に恵まれ、大きな事故や感染拡大を招くことなく終えることができました。実行委員学生や各企画運営学生の奮闘に、心からの敬意と感謝を表します。



手持ち花火大会

学生主事補 沢口 義人

12月16日(木)夕刻、本校陸上競技場にて手持ち花火大会が実施されました。学友会が主催し、学友会執行部の運営により、学生211名と関係教職員が思い思いに手持ち花火のかがやきときらめきを堪能しました。

多くの学校行事が中止となるなかで、学友会役員の発案と創意工夫により、手持ち花火の小分け配布、会場の細分化による密集の回避などの感染症対策を重ねたうえでの実施となりました。

参加学生からは「少し寒かったですがとても楽しい時間でした」「いろんな花火で遊べて楽しかったです」「もっと迫力のある花火もやってみたい」「感染対策もされていて非常に良いイベントだったと思います」などの声が寄せられ、思い出に残るイベントとなりました。



マラソン大会

学生主事補 小原 翔馬

新型コロナウイルスの影響もあり昨年度は実施できませんでしたが、今年は晴天に恵まれ絶好のマラソン日和のもと、12月23日(木)にて開催の運びとなりました。

校長先生の号砲を合図に、学生がそれぞれ懸命に走っていました。

コロナ禍で学生の体力低下が懸念されるなか、こうした行事を通して自らの心身の健康について考え、日々を過ごして欲しいと思います。

また、学校側としても今後とも感染対策に充分留意し、学生の充実した学生生活のために尽力していきます。



後期STG(車両通学学生)講習会

後期における二輪車安全講習として、通学を許可された学生を対象に安全講習会を実施しました。第1回目は11月14日(日)に木更津自動車学校および千葉県警白バイ隊に協力を頂き、実技講習会を開催し、教習所内で基本走行、クランク走行、パイロンを用いたスラローム走行、一本橋走行などの応用走行の訓練を行いました。また、千葉県警白バイ隊の模範走行や運転者としての心得を教えていただく良い機会に恵まれました。

第2回目は12月14日(火)に袖ヶ浦自動車教習所の協力により、座学による交通安全講演会を開催しました。実技では得ることのできない、法令等を学ぶ機会を得ることができました。

本校は、今後も本講習会をより一層充実させることで、学生の車両通学時における走行技術の向上はもとより、安全運転の意識の向上に努めていきます。

ご協力いただいた木更津自動車学校様、千葉県警白バイ隊様、袖ヶ浦自動車教習所様に深く感謝申し上げます。



第1回目実技講習会の様子



第2回目座学講習会の様子

令和3年度いじめ防止短歌コンテスト結果

学友会の学生企画として、11月にいじめ防止をテーマとした短歌コンテストを実施しました。級長会での審査の結果、下記の様に優秀作品が選出されました。たくさんのご応募ありがとうございました。

■ 最優秀賞

その言葉 鏡に向かって 言えますか 熟慮要する 諸刃の剣 (匿名投稿)

■ 優秀賞

嫌がらせ 心を喰らう 見えぬ牙 痛みは消えず 残り続ける (M1 南 世那)

「大丈夫?」「何かあったの?」 さりげない その一言が未来を変える (C1 安田 朱里)

目に見えぬ ころを殺す ナイフ持ち 刺せばあなたは 殺心罪(さつじんざい) (J2 堀川 勇太)

■ 学年優秀賞

気づいてる 画面の向こうの 泣き顔を 口より鋭い 指の口撃 (C1 渡邊 航太)

言葉には 質量なんかは ないけれど 確かにあるよ 大きな力 (C2 鈴木 杏厚)

笑ってる 寄り添う私に 泣いている きみに尋ねる 今わらえるか (C3 中野 孝徳)

その一瞬 いじめた快楽 その一瞬 やられた苦痛は 痛み尽さず (D4 蒔田 光希)

君の手で 伝染する(ひろがる)悪意に 終止符を 連鎖断ち切る 引き金(トリガ)は君だ! (D5 藤平 翔太)

学生の特別表彰

次の学生の皆さんは、課外活動および学業において優れた成果を挙げた業績により、特別表彰として校長から賞状と副賞が授与されました。なお、情報工学科4年 原田そらさんは、国立高等専門学校全体の名誉を高めた学生を対象とする『高専機構学生表彰』を授与されました。(※すごうで2021・2020)

【特別表彰を受賞した皆さん】

■ 優秀学生賞

機械工学科	5年	香川 詩花	電気電子工学科	5年	平山 敦也
電子制御工学科	5年	蛭田 依吹	情報工学科	5年	島津 康平
環境都市工学科	5年	平間 達也			

■ 第3回高専防災コンテスト 高専機構賞

制御・情報システム工学専攻	1年	飯棲 俊介	情報工学科	5年	柿崎 透真
---------------	----	-------	-------	----	-------

■ Fixstars Amplify ハッカソン 最優秀賞

情報工学科	1年	越智 優真			
-------	----	-------	--	--	--

■ 第56回全国高専体育大会 女子走高跳 1位

電気電子工学科	3年	佐藤 凜			
---------	----	------	--	--	--

■ 第56回全国高専体育大会 女子走幅跳 3位

電気電子工学科	3年	佐藤 凜			
---------	----	------	--	--	--

■ 第56回全国高専体育大会 女子やり投げ 3位

環境都市工学科	5年	佐久間妙枝			
---------	----	-------	--	--	--

■ 第126回 技術英語能力検定 文部科学大臣賞

電気電子工学科	3年	宮守 黎			
---------	----	------	--	--	--

■ コンクリート工学年次大会2021 年次論文奨励賞

環境建設工学専攻	2年	大橋 夏樹			
----------	----	-------	--	--	--

■ パソコン甲子園2021いちまいの絵CG部門 佳作

情報工学科	3年	小澤 桜心			
-------	----	-------	--	--	--

■ すごうで2021 連続採択

情報工学科	4年	原田 そら ※			
-------	----	---------	--	--	--

■ すごうで2020 採択

情報工学科	4年	原田 そら ※			
-------	----	---------	--	--	--

■ 高専ワイヤレスIoTコンテスト2020 地域コミュニティ推進大賞

(団体名: Project TSUBAME)

電気電子工学科	4年	菅井 太良	情報工学科	4年	齋藤 悠希
情報工学科	4年	原田 そら	情報工学科	4年	増田 拓己
情報工学科	4年	三浦 浩哉	情報工学科	4年	森 翔大

■ TOKYO STARTUP GATEWAY 2020 優秀賞

情報工学科	4年	原田 そら			
-------	----	-------	--	--	--

■ 第4回高専防災コンテスト 高専機構賞

(団体名: Trial)

情報工学科	2年	佐藤浩一郎	情報工学科	2年	北野 正樹
情報工学科	2年	吉川 祥生			

お知らせ

保健室より



今年度は、新型コロナウイルス感染症により、いつも以上に感染対策に気を付けて過ごしてきた1年でした。新型コロナは来年度も引き続き注意が必要な状況です。各自、学校から配信される対応指針や連絡をしっかりと確認した上で学校生活を送るようお願いいたします。

また、インフルエンザの報告は少ないですが、ノロウイルスによる感染性胃腸炎にも注意が必要な季節です。

感染症予防の基本は、正しい手洗いです。石鹸をよく泡立てて、トイレの後、食事の前、調理の前後、外出から帰宅した時など、忘れずに行うようにしましょう。

・十分な休養と栄養補給、うがい、咳エチケット、マスクの着用、3密をさげ、「新しい生活様式」を心がけましょう。

・体調が悪い時には登校を控え、医療機関で診察を受けてください。感染症に感染している、またはその疑いがあると診断された場合は、公欠(要診断書等)となります。

春休み中は生活のリズムが崩れがちです。毎年春休み明けには、昼夜逆転など、不規則な生活が原因と思われる体調不良の人が多く入室されます。新学期に良いスタートを切れるよう、規則正しい生活を送るようにしましょう!

〈健康づくりのための睡眠指針2014～睡眠12箇条～〉

1. 良い睡眠で、からだも心も健康に。
2. 適度な運動、しっかり朝食、ねむりとめざまめのメリハリを。
3. 良い睡眠は、生活習慣病予防につながります。
4. 睡眠による休養感は、こころの健康に重要です。
5. 年齢や季節に応じて、ひるまの眠気で困らない程度の睡眠を。
6. 良い睡眠のためには、環境づくりも重要です。
7. 若年世代は夜更かしを避けて、体内時計のリズムを保つ。
8. 勤労世代の疲労回復・能率アップに、毎日十分な睡眠を。
9. 熟年世代は朝晩メリハリ、ひるまに適度な運動で良い睡眠。
10. 眠くなってから寝床に入り、起きる時刻は遅らせない。
11. いつもと違う睡眠には、要注意。
12. 眠れない、その苦しみをかかえずに、専門家に相談を。



(健康づくりのための睡眠指針2014厚生労働省より引用)

年度末・年度始めの行事

- 3 / 1(火)～3 / 31(木) 学年末休業
- 3 / 18(金) 卒業式・修了式
- 4 / 1(金)～4 / 4(月) 春季休業
- 4 / 2(土) 開寮(2年生以上)
- 4 / 3(日) 開寮(新入生のみ)
- 4 / 5(火) 入学式
- 4 / 6(水) 始業式
- 4 / 7(木) 前期授業開始

学生相談室より

学生相談室は、皆さん一人一人が充実した学生生活を送れるようにサポートしていくところです。相談内容については固く秘密を守りますので安心してください。相談室は講義棟A 1階 保健室隣にあります。保護者の方の相談も対応いたします。

☆相談内容としては次のようなことが挙げられます。

- 学業・進路について
- 自分の性格や対人関係について
- 健康について
- その他(家庭の事情で悩んでいる、経済的に困っている、恋愛、性、宗教のことで悩んでいる、など)

☆いつ?

- 学生相談室長および看護師は、随時
- カウンセラー
(長期休業期間や試験期間は変更の可能性があります)

愛甲先生 火曜日の10時～17時
木曜日の13時～17時
金曜日の13時～18時
月1回水曜日の17時～19時

坂本先生 月曜日の12時～17時
水口先生 水曜日の12時～17時

- スクールソーシャルワーカー
(相談内容等:経済的な問題、ご家庭・ご家族のことなど)

小幡先生 令和4年度の勤務は月1回金曜日の13時～17時
(不定期)です。予定の詳細については保健室へお尋ねください。

☆相談予約は?

- 保健室で受け付けています。
電話:0438-30-4036
E-mail:soudan@a.kisarazu.ac.jp



教職員の異動

- 採用
9月1日 総務課図書・情報係 齋藤 亜沙美

🎉 永年勤続(勤続20年)教職員表彰

教育研究支援センター 技術専門職員 青柳 宏昭

叙 勲 ※敬称略

小平 眞次(名誉教授) 令和3年秋の叙勲 瑞宝小綬章

訃 報 謹んでお悔やみ申し上げます ※敬称略

宮野 禮一(名誉教授[第6代校長])



独立行政法人国立高等専門学校機構

木更津工業高等専門学校
ホームページ <https://www.kisarazu.ac.jp/>



木更津高専だより第92号 令和4年3月発行
〒292-0041 木更津市清見台東2-11-1
☎0438-30-4000